

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
北海道福祉教育 専門学校	平成4年4月1日	澤 田 麻 呂	〒051-0004 北海道室蘭市母恋北町1丁目5番11号 (電話) 0143-22-7711			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 北斗文化学園	昭和31年9月15日	澤 田 豊	〒051-0011 北海道室蘭市中央町1丁目2番17号 (電話) 0143-23-4400			
目 的	社会福祉士及び介護福祉士法に基づき、介護福祉士として必要な知識及び技能に関する専門教育を行い、人格形成とその涵養に努め、社会に貢献し得る介護福祉士を養成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会 福祉分野	福祉専門課程	介護福祉学科	2年(昼)	2,415時間 (110単位)	平成6年文部科学 省告示第84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,065時間 (71単位)	810時間 (27単位)	0時間 (0単位)	540時間 (12単位)	0時間 (0単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	52人	5人	12人	17人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 学科試験、実習成績、出席回数並びに 平素の学習状況等によって行う。	
長期休み	■夏 季：7月25日から8月16日まで ■冬 季：12月20日から1月18日まで ■春 季：3月21日から4月8日まで			卒業・進級条件	【進級】学科試験、実習成績並びに出 席状況、欠席日数を総合勘案。 【卒業】本校の定める学科目の全てを 終了し、卒業試験に合格した者。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者と連絡し復学へ向けて面談を行う。 必要に応じてカウンセラー等の助言や紹介をする。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、地域社会との交流 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 介護老人福祉施設、介護老人保健施設ほか ■就職率 ^{*1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{*2} 88.5 % (平成26年度卒業者に関する平成26年3月時点の情報)			主な資格・検定	介護福祉士、社会福祉主事 専門士称号、赤十字救急法救急員	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1 名 ■中退率 1.9 %</p> <p>平成 26年 4月 1日在学者 52 名 (平成 26年 4月入学者を含む)</p> <p>平成 27年 3月 31日在学者 51 名 (平成 27年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>一身上の都合</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>担任制度を導入し、細かな面談を個別に実施している。必要に応じて臨床心理士等の専門家を紹介している。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.hokuto-bunka.ac.jp/wevs/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、随時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

設置校の教育課程編成の基本方針は、設置校の目標とする教育計画に基づき次の各号に掲げる教育目標を達成するために「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定」(文部科学省告示第百三十三号)の目的を踏まえて、その規程にある企業等との連携を確保して、学生の修学上、職業実践における専門性の向上が見込まれる効果のある教育課程の履修が出来るように「介護実習Ⅰ」等の現場実習科目を設けて体系的にこれを編成する。

ただし、資格取得に関わる厚生労働省指定養成施設の設置規則に抵触しない範囲によって行われるものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 26 年 11 月 1 日現在

名 前	所 属
澤田 麻呂	北海道福祉教育専門学校 学校長
伊藤 隆治	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 北海道支部 事務局長
滝野 賢次郎	(株)ケアコミュニケーションズ 代表取締役

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 11 月 22 日 14:00 ~ 15:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

介護福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」について、現場体験を通じて学ぶことを目的としている。具体的には、福祉専門職としての職業倫理についての学習、援助業務に必要な資質・能力・技術の習得、関連分野の専門職との連携についての理解、具体的な体験を専門的援助技術として概念化し体系立てられるような能力の涵養を目指している。

介護福祉士受験資格取得が可能な教育課程の編成に当たっては、適切な実習体制の確立が求められていることを考慮して実習計画の策定及び実習指導体制の充実を図っている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習Ⅰ	利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解させる。	○特別養護老人ホーム 喜楽園 ○老人保健施設 母恋 ○訪問介護事業所 いきがい ○訪問介護事業所 ひまわり ○グループホーム やちよ 他 計 27 施設
介護実習Ⅱ	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	○特別養護老人ホーム アポロ園 ○北海道リハビリテーションセンター ○特別養護老人ホーム 寿幸園 ○特別養護老人ホーム 緑風園 ○特別養護老人ホームみたらの杜 他 計 9 施設
社会福祉現場実習	社会福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。	○就労支援 ピアチエーレ ○ワークランド のぞみ ○室蘭市 社会福祉協議会 ○養護老人ホーム あいらん ○デイサービス かがやき 他 計 12 施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学園の設置する専修学校（以下、設置校という。）は、管内唯一の学科形態を有する専修学校につき、その社会的使命を鑑み、そこに勤務する教員の資質の向上を恒常的に図ることにより、常に最新の専門性の高い知識と技術を学生に教授することを目的とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年11月1日現在

名 前	所 属
澤 田 麻 呂	北海道福祉教育専門学校 学校長
滝野 賢次郎	(株)ケアコミュニケーションズ 代表取締役
木 口 健 一	元室蘭市職員
大 越 陽 子	主 婦
和 泉 田 悟	介護福祉士

(学校関係者評価結果の公表方法)

学生・保護者へ送付並びに学園本部ビル屋外掲示板に掲示（公表時期：6月初旬）

5. 情報提供

(情報提供の方法)

学生・保護者へ送付並びに学園本部ビル屋外掲示板に掲示（公表時期：6月初旬）

授業科目等の概要

(福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の理解Ⅰ	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。(1)	1後	30	2	○		
○			人間の理解Ⅱ	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。(2)	1前	30	2	○		
○			社会と制度の理解Ⅰ	介護保険制度と障害者自立支援制度、個人情報保護や成年後見制度など、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化などについて、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。(1)	1前	30	2	○		
○			社会と制度の理解Ⅱ	介護保険制度と障害者自立支援制度、個人情報保護や成年後見制度など、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化などについて、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。(2)	1後	30	2	○		
○			レクリエーション理論	福祉サービスの中で、レクリエーションは利用者の喜びや生きがいと深く結びついていることを理解し、気分転換や運動機能の維持など、目的に応じたプログラム作成や実践のスキルを学ぶ。	1前	30	2	○		
○			健康増進と介護予防	要介護状態の予防方法や、健康生活支援のための高齢者の健康増進についてを学習し、健康増進と介護予防策の基礎的知識を習得する。	1後	30	2	○		
○			接遇の理解	利用者や家族に喜ばれる優しさや思いやりのあるサービスを提供できる介護従事者になるために、適切な言葉使いや挨拶など接遇の基本について学習し、理解させる。	1前	30	2	○		
○			地域社会の理解と演習	地域社会の中で支援するということを考えるため、支援を必要としている人の暮らしと支援していく方法について学習する。地域連携の意義と目的を理解させる。	1前・2前	30	1		○	
○			介護の基本1	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習をする。(1)	1通	60	4	○		
小計					9科目	300時間(19単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			介護の基本 2	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習をする。(2)	1 通	60	4	○		
○			介護の基本 3	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習をする。(3)	2 通	60	4	○		
○			コミュニケーション技術Ⅰ	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。(1)	1 前	30	1		○	
○			コミュニケーション技術Ⅱ	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。(2)	1 後	30	1		○	
○			生活支援技術 1	利用者が日々快適に過ごせるように、身体状況や生活習慣に応じたサービスを提供するため、ベッドメイキングや体位交換、ベッドから車イスへの移動、食事や衣服の脱着、入浴介助などに必要な技術を基礎からしっかり習得させる。てこの原理や膝の屈伸を利用したスムーズな重心移動など、介護者にも利用者にも負担のかからない介助方法も身につける。(1)	1 前	60	2		○	
○			生活支援技術 2	利用者が日々快適に過ごせるように、身体状況や生活習慣に応じたサービスを提供するため、ベッドメイキングや体位交換、ベッドから車イスへの移動、食事や衣服の脱着、入浴介助などに必要な技術を基礎からしっかり習得させる。てこの原理や膝の屈伸を利用したスムーズな重心移動など、介護者にも利用者にも負担のかからない介助方法も身につける。(2)	2 後	60	2		○	
○			生活支援技術 3	利用者が日々快適に過ごせるように、身体状況や生活習慣に応じたサービスを提供するため、ベッドメイキングや体位交換、ベッドから車イスへの移動、食事や衣服の脱着、入浴介助などに必要な技術を基礎からしっかり習得させる。てこの原理や膝の屈伸を利用したスムーズな重心移動など、介護者にも利用者にも負担のかからない介助方法も身につける。(3)	1 前	60	2		○	
○			生活支援技術 4	利用者が日々快適に過ごせるように、身体状況や生活習慣に応じたサービスを提供するため、ベッドメイキングや体位交換、ベッドから車イスへの移動、食事や衣服の脱着、入浴介助などに必要な技術を基礎からしっかり習得させる。てこの原理や膝の屈伸を利用したスムーズな重心移動など、介護者にも利用者にも負担のかからない介助方法も身につける。(4)	1 通	120	4		○	
○			介護過程Ⅰ	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画の立案と、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。(1)	1 前	60	2		○	
小計					9科目	540時間(22単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			介護過程Ⅱ	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画の立案と、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。(2)	2後	60	2		○	
○			介護過程Ⅲ	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画の立案と、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。(3)	2前	30	1		○	
○			介護総合演習Ⅰ	実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会を実施し、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的な学習をする。(1)	1前	60	2		○	
○			介護総合演習Ⅱ	実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会を実施し、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的な学習をする。(2)	2前	60	2		○	
○			介護実習Ⅰ	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解させる。	1後	180	4			○
○			介護実習Ⅱ	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	2前	270	6			○
○			発達と老化の理解Ⅰ	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。(1)	1前	30	2	○		
○			発達と老化の理解Ⅱ	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。(2)	2後	30	2	○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。(1)	1後	30	2	○		
小計					9科目	750時間(23単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			認知症の理解 Ⅱ	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。(2)	2 前	30	2	○		
○			障害の理解Ⅰ	障害のある人や心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。(1)	1 前	30	2	○		
○			障害の理解Ⅱ	障害のある人や心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。(2)	1 後	30	2	○		
○			こころとからだのしくみⅠ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点、心理的側面への配慮について理解させる。(1)	1 前	90	6	○		
○			こころとからだのしくみⅡ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点、心理的側面への配慮について理解させる。(2)	1 前	30	2	○		
○			医療的ケア	医療的ケアを安全・適切に実施する為、その人らしい生活を継続して営むために必要な支援技術や、安全・安楽に実施できる知識・技術などを習得する。また、他職種との連携の必要性も理解させる。	2 通	75	5	○		
○			医療的ケア	医療的ケアを安全・適切に実施する為、シュミレーターを用いて効果的に演習し、基本に沿って一人で実施できる技術を習得する。	2 後	60	2		○	
○			介護福祉学 総論	介護領域の知識を基礎に人間と社会やこころとからだのしくみなど多領域の知識及び技能を体系的に理解できるように講義を進めるとともに、必要に応じて、過去の国家試験問題等の問題を解くことで習熟度を高める。	2 通	90	6	○		
○			児童福祉論	児童福祉の意義及び歴史的展開過程、児童福祉の法律、制度、福祉機関・施設を体系的に理解させる。また、児童福祉サービスの現状と課題、児童、家族に対する相談援助活動についてを理解させる。	2 前	30	2	○		
小計					9科目	465時間(29単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			地域福祉論	地域福祉の基本的考え方、主体と対象について、組織・団体及び専門職の役割と実際について、ネットワーキングの意義と方法及びその実際について、推進方法について、理解させる。	2 前	30	2	○		
○			社会福祉援助 技術演習	社会福祉援助技術の方法及び内容や人権の尊重、自律支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる。また、地域援助技術(コミュニティワーク)、ケアマネージメントについても理解させる。	2 前	30	1		○	
○			福祉事務所 運営論	福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)の管理運営の方法と実際について理解する。	2 後	30	2	○		
○			社会福祉施設 経営論	福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)の組織と経営に係る基礎理論について理解する。また、組織の経営と実際についてを理解する。	2 前	60	4	○		
○			法学	実際に起こった事件(裁判例等)を用い、法律や憲法の問題を身近に感じてもらう。また、法律や憲法が生活の中に様々な形で関わっていることに気付き、法律や憲法の考え方、民主主義の本質(少数者の人権の尊重)を理解してもらう。本講義より法律や憲法の講義を通して、他人に対する思いやり・配慮の気持ちを養う。	2 後	30	2	○		
○			経済学	経済学の理論や概念を知ることによって、資本主義の仕組みを理解させる。それぞれの時代の経済学を、理論・歴史・政策の統一のなかで把握できるようにさせる。	2 後	30	2	○		
○			社会福祉現場 実習	社会福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。	2 後	90	2			○
○			社会福祉現場 実習指導	社会福祉現場実習に当たって、その心構えや具体的な知識を含めたオリエンテーション、現場で求められる実技指導などを行う。	2 後	60	2		○	
小計					8科目	360時間(17単位)				
合計					44科目	2,415時間(110単位)				